

# 10.18~20同盟登校と 自主討論を追求しよう!

## ◆10.16全学斗結成後半を筆会開催

学友諸君、今又斗いは学生の手に委ねる第一歩を踏み出した。我々は1:30PM頃の正面前の大衆的な討論が多くの学友自身を参加者として、自然発生的に勝ち取られる中で、2:30PMからの図書館前に於ける全学斗結成総決起集会を100名に及び学友の参加をもって、学校当局(学生部)の妨害、分断策をばねの付いた的に勝ち取り、全学斗からの野郎取直、「法・経・文・総合学部及び神学系及びサークル斗争委、青学大代平連等からの決意表明及び闘争連帯の誓いを受けた後、300名の学友の参加による大衆的デモンストレーションを展開獲得した。

この新たな斗いに対する、我々の視点と具体的な斗争方針を明確に提起し、発信にかえようとする。

## ◆「三公示放棄・自治会設立」実践的立場とは何か

まさに我々の日常性に貫徹されているところの「三公示」体制は体制秩序のワク内に、学生の自治を押しこめるものでしかない。学生の直接的利益は、体制内に適応させていく道をもってしては具体的に表現されえない。

全学斗は、アキスティブな意味に於いて、大衆の本能と自然発生的性——又、個人の創造力を徹底的に依頼し受けなければならない。フランスでもシグザクと重苦しい討論の過程を自らの内面に位置づける。

中大・日大等で勝ち取られている学部の自治管理：自主講座・カリキュラムへの学生参加 etc ——フランスの学生達が「カルヂェ・ラタン」として勝ち得たものは、斗うバリケードではない、黒くした石のバリケードの背後にある遠い光の一点——真なる人間の生身と生身の共同体の建設、そして自治・自主のアーキーな組織、これこそが、彼等の求めた遠い光なのだ。

我々こそが、今こそ自主をががけ、個人の創造性を開花させる事の出来る場を獲得せねばならないだろう。実践的立場とは、かたしゆらな行動をも経て、多くの失敗と厳しい敗北をひまら、かつ体制秩序の暴力に対して、斗う立場のみではないだろうか。

「三公示放棄・自治会設立」の彼方にある、類的生活・社会的人類としての発展が、何れも此の目指すものなのだ。

『俺達の前に道はない、

俺達の後に道はできる』

## ◆具体的行動方針

10.18~20に於ける、アドグル・デーを利用したところの、大学当局のヒボウと中傷、学生への恫喝を拒否し、同盟登校をもつ、斗う青学の学友同志の、コンミュニシヤク自由陣営を築こう!!

## ◆10.23 大衆団交追求総決起集會

「自主」を勝ちとる為には斗おう!

10.17

法学部闘争委員会